



関東中央病院 Memories 思い出のアルバム No.8

このシリーズは、平成5年（1993年）1月から、「緑のひろば」で12回にわたって連載された記事の再掲載です。

昭和28年開院当初の受付窓口の写真は残念ながら見つかりません。下の写真は昭和31年頃の写真で、この頃、一日平均外来患者数は243人です。手前の診察申込書記入台は、^{※1}なんと現在も使用しています。改築前の「遺物」として、関東中央病院の玄関に入って最初に目につくものです。

カウンターの上はガラスの仕切りがありました。この仕切りは東急や小田急の路線バスの窓のように上下に動き、30cm位開きました。患者さんと職員のやりとりはガラス越しにできるのですが、どうかして、興奮した患者さんが頭を突っ込んでしまうこともありました。



丈夫で長持ちの記入台でした。



昭和31年当時の外来待合

※1 平成25年現在ではもう使用していません

※2 自動再診受付機は現在導入済みです



ホテルのような今（平成5年当時）の外来ホール

現在、受付カウンターはシティホテルのようになり、外来患者数も一日平均1,200人になりました。再来患者さんの受付時間のスピードアップを図るため、自動再診受付機^{※2}の導入を検討中です。近い将来、再来患者さんの受付方法も一変するかもしれません。

（平成5年8月号掲載）

◆次回は平成25年11月号に掲載する予定です。